

まちのキラリびと



敦賀盆栽・野草会
会長 高崎 三藏さん

何事も、世のため人のために奉仕をする気持ちが大切です。



和みを運んで19年。心は晴れやか

植物に触れることが好きだった小学生時代、畑や山で採取した木の实を実家の庭先に植えて、花が咲き実をつける様子を観察することが楽しみでした。今になって思えば、その経験が盆栽を育てるきっかけになりました。それから63年間、様々な盆栽を育ててきました。

敦賀市を含め近隣自治体が開講する園芸教室で講師を務めていた時に、市職員から「市役所に和みが欲しいから盆栽を飾ってほしい」と相談を受け、市役所のロビーで盆栽を展示するようになりました。月曜日に盆栽を飾りはじめ、水曜日には水やりを、金曜日に撤収するというサイクルで、四季折々の盆栽を飾ることができました。市役所は空調が効き乾燥しがちな場所のため、盆栽の展示には不向きでしたが、市職員にも手伝っていただきながら、19年間盆栽を展示することができました。

体調不良などで展示を休む時もありましたが、市職員や市民から体調を心配する声をいただくことがあり、そういった声かけや励ましが、展示を続ける原動力になったと感じています。

91歳になり、自動車免許の返納を決めたことを機に、市役所での展示を辞めることとしました。辞めるにあたり、市民や市職員からメッセージや励ましをいただきました。これが私の宝物となっています。そして、これまで見守ってくれたすべての皆様に感謝します。

(関連記事 P14)

▼水やりの様子



高崎さんは、市内幼児施設に笑顔を届ける名物サンタクロースとしても活躍しています。この活動は30年以上続けており、子どもたちに夢を与えています。

まちの宝を発見！
つるが歴史遺産

こちらの2句は3月21日までの公開です。
お見逃しなく。

案内人 学芸員 加藤 敦子

『おくのほそ道』の旅の中で、芭蕉は福井から同行した等哉と共に旧暦8月14日に敦賀へ到着します。翌日の中秋の名月を楽しみにしながら、一行は夜の気比の明神(氣比神宮)へお参りします。そして、かつて遊行上人が氣比社の参道のぬかるみに困っている人々のために、自ら砂を運んで埋め立てたという「遊行のお砂持ち」の故事を聞き、句を詠みます。

月きよし遊行のもてる砂の上
月の光に輝く白い砂の美しさが目に浮かぶようです。そして、「月きよし」の初案とされる句があります。なみだしくや遊行のもてる砂の露

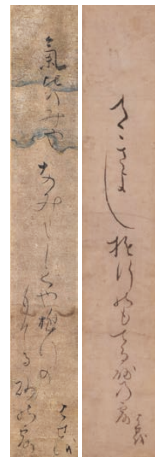
遊行上人の逸話に大きく心を動かされた芭蕉の心情が伝わってきます。そして、「なみだしくや」の再案にあたるのが、次の句です。

月きよし遊行のもてる砂の露
このように、芭蕉が「砂の上」に至るまで推敲を重ねていたことが分かります。

現在博物館では、株式会社ジャクエツの名誉会長・徳本道輝氏が収集されてきた美術品を展示しています。名品が並ぶ中で、再案にあたる芭蕉短冊「月きよし」を展示しています。さらに、初案にあたる短冊「なみだしくや」(川上季石コレクション)も同時公開しています。芭蕉による敦賀ゆかりの感動的な二句を一緒にご覧いただけるまたとない機会です。会期中展示替えを行い、そのほか芭蕉の関連資料(懐紙「たふとさや」、懐紙「人にかを」、「加賀山中懐紙」)も公開します。ぜひ博物館へお越しください。

芭蕉短冊

- ▶ (写真右)「月きよし」
江戸時代 福井県立美術館蔵 (ジャクエツコレクション)
- ▶ (写真左)「なみだしくや」
元禄2年(1689) 市立博物館寄託 (川上季石コレクション)



敦賀ゆかりの芭蕉の句

広報担当者の
つぶやき

日中暖かさを感じるようになってきました。そして、気になるのが花粉の飛散です。今年は特に飛散量が多いという目を疑うニュースを見ました。花粉症に苦しむ私ですが、義理の母が実践している鼻うがい花粉症だけでなく、風邪予防にまで効果があるとのこと。そこまで言うのであれば試してみましよう。(T)

今回の表紙を飾ってくれたのは、新庁舎イベントで子ども防火衣を着てポーズを決める4歳と6歳のきょうだい。カメラを向けると笑顔で応えてくれて、思わず「かわいい！」と連呼しながらシャッターを切っていました。周りからみたらおそろく怪しいおじさんに見えていたことでしょう。(M)